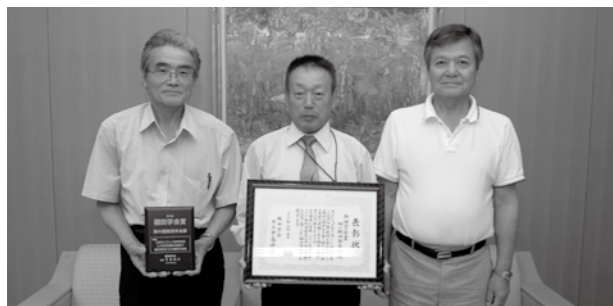


畑棚田保存会、 棚田学会賞を受賞！



畑棚田保存会が「第8回石井進記念棚田学会賞」に選ばれ、8月5日(日)に東京の三越劇場(日本橋三越本店)で開催された棚田学会大会シンポジウムで表彰されました。

畑棚田保存会は、県内唯一認定された「日本の棚田百選」である棚田を将来にわたり保全するため、平成12年に集落全員が加入し、保全活動の取り組みを行なわれています。

今回の表彰は、棚田を保全するため「棚田オーナー制度」「棚田ボランティア」「大学や企業との連携」の取り組みが評価されたものです。

受賞おめでとうございます。(高島支所)

高島産木材で本棚づくりに挑戦

くつきの森で伐採見学と大工さんとつくる木工教室

7月28日(土)、「くつきの森で伐採見学と大工さんとつくる木工教室」を開催しました。参加者は、スギの伐採作業の見学の後、伐採されたスギの樹皮むき(木材の乾燥を促します)の体験と、木工教室では高島産スギ板で本棚を作成されました。暑い一日でしたが、とても充実した内容で好評でした。高島の木の家づくりネットワークでは、高島市内産材の啓発のため、さまざまな催しを行っています。ぜひ参加ください。(P 33 参照)(森林水産課)



ぶつかり合うプライド!! 熱戦!! ペーロン大会!

7月29日(日)に第21回びわ湖高島ペーロン大会を、今津町南浜琵琶湖岸で開催しました。

チャンピオンシップの部とフレンドシップの部を合わせて34チームが出場し、真夏の暑い日差しと穏やかな琵琶湖の中、熱戦が繰り広げられました。クルクルと迷走を繰り返すチームもありましたが、懸命に声を合わせながらオールを漕ぐ選手たちに、浜辺から大きな声援が送られました。

今年は、揃いのユニフォームや個性的なコスチュームで出場するチームが例年以上に多く、白熱した湖上での戦いとともに、色鮮やかな姿で盛り上がりをもせた大会となりました。

チャンピオンシップの部の初代チャンピオンとなった「CAMP IMAZU」は、昨年までの一般の部を通じて3連覇となりました。「来年こそは、自分たちがこのチームに勝ってみせる。」と思われる皆さんのご参加をお待ちしています。(観光振興課)



← 3連覇を達成した CAMP IMAZU

【大会結果】

《チャンピオンシップの部》

- 優勝 CAMP IMAZU
- 準優勝 松陽台
- 第3位 三谷オーシャンクルー

《フレンドシップの部》

- 優勝 CREW2 11号

《特別賞》※飛び賞除く

- ベストチームワーク賞 中野ガンバルズ
- ベストドレッサー賞 小寺製作所
- ようこそ賞 池の里LAKERS!



↑ CREW2 11号

山本さん親子、県親子でいい歯コンクールで優秀賞!

7月22日(日)に開催された「第61回親子でいい歯コンクール」県大会で、高島市代表の山本美穂さん、萌桃子ちゃん親子が、17組中上位3組に入り優秀賞という素晴らしい結果となりました。

山本さん親子が日頃から気をつけておられることをお聞きしたところ、

- ①食べた後(朝昼晩)と寝る前は必ず磨く
- ②果物や、甘みの少ないおやつを食べるとのことでした。

また大変だったことは、仕上げ磨きを嫌がったことですが、歯みがきをしてから外に遊びに出かけるよう歯磨き後の楽しみをつくる工夫をされたそうです。

お母さんはコンクールをきっかけに子どもの歯だけでなく、自身の歯と歯肉を見直す機会になり、自分の歯への意識が変わったと話されました。

健康な歯は一生の宝物です。これからも大切にしてくださいね。(健康推進課)



コンクールを審査された歯医者さんからのコメント

高島市代表の山本さん親子は、お母様の口腔衛生に関する意識も高く、お子さんの生活習慣も高く評価でき、母子とも最優良のレベルであった。今後もかかりつけ歯科医の指導のもと、良好な口腔状態を維持していただきたい。

大洲市の小学生と交流し、 藤樹先生について学ぶ!



中江藤樹小学生交流事業で高島市を訪れた大洲市の小学生と、高島市内の小学生が集まり年間を通じて体験活動を行う「よえもん道場」の小学生との交流会を、7月26日(木)に安曇川公民館で行いました。

論語の素読をはじめ、自分の名前を色砂で描いた色紙を作成したり、琵琶の演奏を聴いたりしながら、藤樹先生の教え「おもいやりの心」について学びました。藤樹先生にゆかりのある地の小学生同士が交流を通して学ぶ先生の教えは、子どもたちの心に残る活動となりました。

(高島市青少年育成市民会議)

永田さん、全国農協連合会 会長賞 受賞

6月20日(水)、第40回全国豆類経営改善共励会の表彰式が東京都中央区の銀座東武ホテルで開催され、安曇川町の永田勝己さんが大豆経営の部で『全国農業協同組合連合会会長賞』を受賞されました。

永田さんは、「有限会社ライスステーションタカシマ」での大豆経営が、地域との繋がり・貢献度が高く、省力化等が高く評価されました。(農業振興課)



永田勝己さん